

大学コンソーシアム富山 令和4年度「富山学」実施報告

<p>事業名</p>	<p>大学コンソーシアム富山 令和4年度単位互換開講科目 「富山学」</p>
<p>実施機関名</p>	<p>富山大学 奥 敬一（富山大学芸術文化学部教授）</p>
<p>趣旨・目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山の自然基盤の成り立ちと現状について理解し、産業やまちづくりとのつながり、防災の重要性などについて理解を深める。 ・フィールドワークや地域のひとびとの対話を通して富山の歴史的・文化的な成り立ちと現状について理解し、住環境や生活にみられる富山の価値に対する理解を深める。 ・富山県が持っている世界や日本の中での独自性・固有性を活かして、富山の将来像について日常の中で意識的に考え、行動できるような態度を培う。
<p>開催日時</p>	<p>令和4年9月6日（火）、9月13日（火）、9月20日（火）、 9月27日（火）</p>
<p>開催場所</p>	<p>大学コンソーシアム富山駅前キャンパス研修室1 五箇山合掌造り集落 他（9月6日は遠隔授業）</p>
<p>参加人数</p>	<p>学生44名 【内訳】・富山大学（32名） ・富山県立大学（11名） ・富山国際大学（1名）</p>

<p>事業内容</p>	<p>< 1～3回 9月6日(火) 1限～3限 ></p> <p>1. ガイダンス 講義全体の進め方、成績評価等についての解説 富山県の基礎情報；統計からみた富山</p> <p>2. 富山の自然基盤(水循環) 立山連峰から富山湾に至る大きな水循環について理解し、富山の産業や生活と深く関わっていることを学ぶ</p> <p>3. 富山の自然基盤(植生) 過去から現在にわたる富山の自然植生の変化と現況について解説し、緑地がグリーンインフラとして生活・住環境の維持に果たしてきた役割について理解する</p> <p>< 4～7回 9月13日(火) 1限～4限 ></p> <p>4. 統計からみた富山(振り返り) 9月6日の回で学んだ内容と事後学習の内容を振り返る。</p> <p>5. 富山の自然の保全 立山の自然の保全の実態や、自然環境と両立する観光のあり方、さらに自然保護に関係する仕事について学ぶ 外部講師：環境省立山管理官事務所国立公園管理官・中森 健太</p> <p>6. 富山の自然基盤(生物多様性) 富山の自然環境と社会文化の相互作用が織りなす生物多様性について解説し、住環境や食文化との関係について理解する</p> <p>7. 富山の自然基盤(総括) 富山の自然基盤についてのグループディスカッションを通して、富山の特徴を生かしたライフスタイルとは何かを検討する。</p> <p>< 8～11回 9月20日(火) 1限～4限 ></p> <p>8～11. 五箇山フィールドワーク 立山山系の地形的な特徴とその社会との関わりについて解説する 外部講師：五箇山自然文化研究会会員 9:45 富山大学五福キャンパス出発 11:00 菅沼集落到着 現地講師による菅沼合掌造り集落解説 五箇山民俗館、塩硝の館など見学 12:30 バスでタカンボースキー場へ 12:45 昼食 タカンボースキー場ふれあいハウス 13:30 タカンボースキー場茅場 茅場管理の取り組みについて解説 茅刈り体験(現地講師) 15:15 菅沼集落出発 16:30 富山大学五福キャンパス到着</p>
-------------	--

< 12～15回 9月27日(火) 1限～4限 >

12. 富山の歴史と文化(振り返り)

9月13日の回の事後学習、および9月20日のフィールドワークで学んだ内容について振り返る

13. 富山の歴史と文化(生活文化の景観)

富山県内の自然環境に育まれた特徴的な生活文化の景観について解説する。

14. 富山の歴史と文化(海の文化とネットワーク)

立山山系と白山山系の両霊山を擁する富山には、信仰を背景とした多様で奥深い山村生活の文化が根付いている。また、日本海に面した富山は海や川を通して他地域ともつながりあってきた。富山の基層に流れる山と水運の文化について解説する。

15. 総括

レポートにもとづくグループディスカッションと「富山学」のまとめ

9/20 フィールドワークの様子

